

# 平成16年度 事業報告

## 第1 事業実施概要

- 1 健康的でゆとりある生活、やすらぎや自然を求める国民の意識が高まる中で、緑や水に恵まれた豊かな自然、美しい景観を有する農山漁村に対する評価が高まっている。

このようなトレンドを背景に、都市と農山漁村を双方向で行き交う新たなライフスタイルの普及推進を図るため、「都市と農山漁村の共生・対流」を進めることが課題となっている。

このような課題に対応して、都市住民のライフスタイルに農山漁村の活動を位置づけ、都市と農山漁村の間で「人・もの・情報」が循環するような状況を創り出すため、「オーライ！ニッポン会議」を推進主体として共生・対流の国民運動の展開を図った。
- 2 都市住民のグリーン・ツーリズムに対するニーズが高まるとともに、世代ごとの交流等に関する目的や内容が多様化しており、一方、農山漁村では、グリーン・ツーリズムの推進による地域活性化への期待が増大している。また、観光立村の推進に向けて訪日外国人旅行者等を農山漁村へ誘導するための取組の支援が求められている。

このため、都市と農山漁村の共生・対流の国民運動を展開する中で、グリーン・ツーリズムの新たなスタイルの普及を図るとともに、特に、都市部への情報提供拠点となるグリーン・ツーリズムセンター機能の確立、グリーン・ツーリズムビジネスの育成、外国人旅行者の農山漁村地域への受け入れ体制の整備、農林漁業体験民宿業の登録の推進等の業務を強力に推進した。

また、グリーン・ツーリズム推進の担い手の養成を図り、全国的に人材ネットワークの形成を進めるとともに、地域資源を活用した農山漁村の魅力向上のための地域ぐるみの自発的取組の支援を行った。
- 3 過疎化、高齢化、担い手不足等により活力の低下がみられる農山漁村地域の活性化を図るため、人材の育成支援、地域農産物の安定的な販路拡大のための実需者と生産者の連携活動の強化を図ったほか、事業の評価手法を含む地域活性化のための各種調査研究を行った。さらに、地域資源を活用した地域活性化のための多様な支援活動を行った。

また、インターネットを活用した食品の電子商取引の推進を図るとともに、「トレーサビリティシステム」の実用化の促進等を行った。

- 4 グリーン・ツーリズムの推進をはじめとする都市と農山漁村の共生・対流を促進する観点から、各種イベントやフォーラムの開催、海外諸国との交流を行うとともに、多様なメディアを通じた広報・出版活動を行った。
  
- 5 以上のような活動を通じて、都市と農山漁村の間において、「人・もの・情報」の交流のネットワークを形成し、都市と農山漁村の共生・対流を進めることとし、第2の事業内容に掲げる事業を総合的に推進した。  
なお、事業の実施にあたっては、情報公開の徹底を図ることにより、公平性、透明性を確保するとともに、業務の効率的な執行体制を整備し、健全な財務の運営に留意しつつ、業務の円滑な遂行に努めた。

## 第2 事業内容

都市と農山漁村の共生・対流の推進

### 1 美しいふるさと・国づくり推進事業

市町村、NPO、企業、団体等を構成員とする「オーライ！ニッポン会議」（都市と農山漁村の共生・対流推進会議）を推進組織として、民間が主体的に取り組む都市と農山漁村の共生・対流の国民運動を展開したことにより、美しいふるさと・国づくりの推進に資した。

#### （1）都市と農山漁村の共生・対流の国民運動の推進方法の検討

都市と農山漁村の双方向で行き交う新たなライフスタイルの普及推進に向け、民間の主体的な取組の拡大を図るため、「オーライ！ニッポン会議」の下に グリーン・ツーリズム、情報、NPOの3つの専門部会を設け、都市と農山漁村の共生・対流に向けた活動の推進方法について検討を行った。また、都市と農山漁村の共生・対流を実践する都市住民の動向を定期的に把握するため、モニターを対象としたアンケート調査、懇談会を実施し、都市と農山漁村の共生・対流の国民運動の推進方法の検討に反映させた。

（モニター現地懇談会）

平成17年3月22～23日：三重県南勢町（34名参加）

#### （2）都市と農山漁村の共生・対流の普及・推進活動の展開

都市と農山漁村の共生・対流に向けた統一コンセプトの下、「オーライ！ニッポン」のキャンペーンネーム、ロゴマークなどを使用したシンポジウム、イベントなどをオーライ！ニッポン会議のメンバーと連携しながら実施し、都市と農山漁村の共生・対流の普及・推進を図った。また、長期休暇制度の普及と連携しつつ、都市と農山漁村の共生・対流の推進活動を行った。

（主なシンポジウム等）

第2回オーライ！ニッポン全国大会

平成17年2月23日 於；イイノホール（都内）550名参加

オーライ！ニッポン大賞等の表彰

記念講演 船山 龍二 氏

（社）日本ツーリズム産業団体連合会会長

オーライ！ニッポン北海道シンポジウム（地方シンポジウム）

平成16年9月10日 於；札幌市 700名参加

基調講演 木村尚三郎 東京大学名誉教授

### (3) 優良事例の表彰

都市と農山漁村の共生・対流に資する優れた取組みを広く普及するため、共生・対流の推進に貢献のあった団体もしくは個人を表彰した。

(応募数) オーライ！ニッポン大賞 115件  
ライフスタイル賞 18件

#### (表彰)

- ・ オーライ！ニッポン大賞グランプリ（内閣総理大臣賞）  
兵庫県八千代町
- ・ オーライ！ニッポン大賞  
日本生活協同組合連合会 他4件
- ・ 審査委員会長賞  
新潟県高柳町 他7件
- ・ ライフスタイル賞  
岡山県久世町 徳永 巧 氏 他5名

農山漁村の伝統文化を継承し、その所産を地域の活性化に生かしている活動等を表彰した。

農林水産大臣賞 山口県上関町「祝島の神舞」  
農村振興局長賞 岩手県久慈市「水車がまわり、地域も賑わう」  
愛知県知多市「木綿蔵のある街並み」

#### (財) 都市農山漁村交流活性化機構理事長賞

石川県七尾市「小牧・外地区の出会いの虫送り」  
京都府八幡市「ずいきみこし」  
岡山県川上村「蒜山のがま細工」

## 2 共生・対流ポータルサイトの運営

都市と農山漁村の共生・対流の推進に向けて、共生・対流に関する各種情報のアクセスの改善、データベースの充実等を図るため、関係各省及びその関連団体の協力の下に、企業、団体、NPO等との連携により、共生・対流のポータルサイトとしてのホームページの管理・運営を行った。

### グリーン・ツーリズムの総合的推進

#### 1 グリーン・ツーリズムセンター機能確立事業

都市住民のニーズをグリーン・ツーリズムの実践に結びつけるためには、情報面で都市側の動きを支援するとともに、都市と農山漁村のつながりを強化する必要がある。このため、次のような取組を通じて、都市部における農山漁村情報の提供拠点となるグリーン・ツーリズムセンター機能の確立を図

ることにより、都市と農山漁村を双方向で行き交うライフスタイルの実現に資した。

#### (1) グリーン・ツーリズム情報提供等促進事業

インターネットを活用した都市住民のグリーン・ツーリズムに対するニーズ調査を行い、その結果を踏まえたふるさと情報、体験学習、体験民宿、交流拠点等に関する情報を収集・整備し、全国子ども農林漁業受入地域情報等多彩なデータベースを整備した。

また、関係機関が所有する各種農山漁村情報の総合的検索システムによる都市部への情報提供の充実強化・都市住民がグリーン・ツーリズム情報に容易にアクセスできるポータルサイトの構築及び検索方法等の検討を行った

#### (2) 交流マッチング活動推進事業

都市部の教育者、NPO等と農山漁村の市町村や農家民宿等受入側との検討会を開催し、マッチングする上での課題、情報収集・相談体制の整備について検討した。

その検討結果を踏まえ、都市と農山漁村が連携した活動事例、都市住民のニーズ及び都市部の自治体等の交流意向等について訪問調査を実施した。また、「ふるさとプラザ東京」を本部内に移転してグリーン・ツーリズム、都市と農山漁村の共生・対流等に関するマッチングのための相談体制の整備、インターネットを通じたマッチング情報サイトの整備、交流相談会の開催等を行った。

##### (交流相談会)

北海道地区 帯広市 延べ63名参加(2回)

岩手県地区 遠野市 70名参加(1回)

大分地区 豊後高田市、竹田市 延べ36名参加(2回)

福岡地区 八女市 延べ40名参加(5回)

#### (3) 観光立村の推進

訪日外国人旅行者数の増加を目指す政策目的の下に、外国人旅行者等を我が国の農山漁村に誘導する取組を支援することにより、観光立村の推進を図った。このため、外国人の我が国農山漁村旅行へのニーズの分析と受入地域向け手引の作成、国内滞在外国人及び外国旅行者、マスコミに対する我が国の地方・農山漁村文化に関する情報の提供等を行った。

## 2 グリーン・ツーリズムビジネス育成事業

農山漁村においては、グリーン・ツーリズムの推進により、新たな就業機会を創設し地域の活性化を図ることが期待されているが、このためには、交

流体験サービスや施設等の質的向上、グリーン・ツーリズムビジネスの起業マインドを有する人材や地域でグリーン・ツーリズムを企画・立案・調整を行うコーディネーター等の育成、さらには、現場レベルでの魅力的な体験プログラムの開発等が課題となっており、次のような取組を通じてビジネスの育成を図った。

#### (1) グリーン・ツーリズムビジネス推進事業

農林漁業体験民宿業等における交流体験サービスについて、ニーズに即した多様な展開と魅力向上を図るための調査検討を行うとともに、体験民宿等の資質向上を目指すため、農林漁業体験民宿施設の整備水準等に関する調査を実施した。

また、農林漁業体験民宿の利用拡大等を推進するための普及啓発活動の実施、農林漁業体験民宿業者の組織化、民宿相互の情報交換等を行った。

#### (2) グリーン・ツーリズムビジネスの起業化支援事業

農林漁業体験民宿等のグリーン・ツーリズムビジネスの開業等を支援する「グリーン・ツーリズムビジネス開業スクール」を開催した。

(13回開催、284名が受講)

地域において各種体験活動等の企画・立案・調整を行うコーディネーター等の育成のための研修会を開催した。(11回開催、243名が受講)

このほか、都道府県のインストラクター等の研修会について、6県(8回)186名の研修を支援した。

#### (3) グリーン・ツーリズム人材バンク整備事業

農山漁村側の受け入れ体制の充実・強化を支援するため、グリーン・ツーリズムコーディネーター等研修受講者や、都道府県等において育成された人材をデータベース化し、コーディネーター、インストラクター等407名の情報をホームページを通じて紹介した。

### 3 グリーン・ツーリズムツアー・研修サポートセンターの設置

田舎体験、農山漁村・自然体験、研修ツアーづくりを支援するため、グリーン・ツーリズムツアー・研修サポートセンターを設置した。

#### 農林漁業体験民宿業登録制度の普及推進

##### 1 農林漁業体験民宿業の登録

農林漁業体験民宿業の健全なる発展を図るため、その適正営業規程の順守を指導するとともに、関係機関・団体の協力の下に、農山漁村側への農林漁業体験民宿業登録制度の趣旨の浸透を図り、登録の促進を図った。また、都

道府県知事が指定した農林漁業体験民宿業団体との連携強化を通じて登録促進のための体制整備を図った。

【平成16年3月末現在 農林漁業体験民宿登録数 505件】

## 2 登録農林漁業体験民宿の利用促進

グリーン・ツーリズムの普及と登録した農林漁業体験民宿の利用の拡大を図るため、インターネットホームページを通じた情報の提供、体験民宿ガイドブックの内容を充実して発行したほか、各種メディアの活用により、都市側利用者へ農林漁業体験民宿の普及・浸透を図った。

## 3 農林漁業体験民宿業に関する調査研究

農林漁業体験民宿の利用実態、利用者のニーズ、経済的効果を把握するとともに、グリーン・ツーリズムの推進手法について調査研究を行った。

### 経営構造対策推進事業

#### 1 地域経営体制構築総合支援事業

##### (1) 地域経営支援人材活用推進活動

地域関係者の役割分担の下に、地域資源を活用して地域全体の所得の向上を図る、いわゆる「地域経営」のまとめ役として貢献した人材（地域マネージャー等）、新たな事業展開に必要となるマーケティング、商品開発等に関する専門的知識を有する人材等をデータベース化し、各地域に紹介することにより地域農業の担い手育成のための円滑な事業の推進を図った。

##### (2) 地域経営推進体制強化プロジェクト事業

経営構造対策のより効果的な事業展開を図るため、ロジックモデル等による事業効果の把握及びその評価手法の調査・研究を行った。

また、当該手法の普及を図るための全国研修会を開催した（平成16年10月1日 東京都 63名）。

さらに、都道府県が開催する当該手法の研修会に対して16回にわたり講師派遣を行った（14県）。

#### 2 販路開拓緊急対策事業

食品産業等実需者サイドの多様なニーズに対応し、地域農産物の安定的な販路を開拓することが農業の構造改善を進める上で緊要な課題となっていることに鑑み、インターネットによる実需者と生産者の情報交流サイトを通じて双方に必要な情報提供を行うとともに、実需者サイドと生産者サイドとの連携の促進、地域農産物の販路開拓に関する相談会、シンポジウムの開催、アドバイザーにより栽培技術指導等の支援活動を行い、地域農業の構造改善の促進に資した。

(シンポジウム・相談会)

平成16年10月26日 京都市(150名)

平成16年11月24日 熊本市(120名)

平成17年 2月14日 東京(288名)

(栽培技術指導)

平成17年3月24～25日 滋賀県高島市

「雑穀の栽培技術指導と商品化について」

地域食品の流通促進と食品の安全性の確保

1 地域食品電子商取引推進支援事業

地域食品(ふるさと食品)の電子商取引を推進するため、引き続きインターネット上にバーチャルモール(仮想市場)を設けてその管理運営を行い、地域食品について生産者と消費者が直接取引できる場を提供することにより、地域食品の流通の促進を図った。

2 食品トレーサビリティシステムの実用化支援事業

食品の履歴情報の収集・提供を通じて食品の安全・安心システムの開発をめざす「食品トレーサビリティシステム」の普及推進を図った。

畜産地域の振興

1 農山村活性化推進調査研究(畜産地域快適生産・生活空間形成推進事業)

畜産地域の快適でうるおいある生産・生活・交流空間として整備し地域活性化を推進するため、畜産の立地する地域の適正な土地・資源の利用、美しい景観形成、快適な生活環境の整備等のあり方に関する調査研究を行った。

酪農は鳥取県鳥取地域、島根県木次地域及び岡山県蒜山地域の3地域、肉用牛は大分県久住地域においてのケーススタディと併せて前年度に開催した蒜山地域を除く3地域でフォーラムを開催した。2年間の成果を踏まえ、報告書「安全で魅力ある畜産の生産・生活・交流空間の形成を進める産地の声を聞く」を作成・配布した。

2 農山村地域魅力形成発信事業

畜産地域の活性化を図る観点から、都市住民への魅力ある余暇空間の提供に関して、地域の魅力の発掘、情報発信等のアピール手法を検討するとともに、その成果について普及啓発を行った。

酪農は福島県川俣地域、肉用牛は熊本県高森地域においてケーススタディを行い、2年間の成果を踏まえ報告書「農山村の立地を背景に都市と農村を結ぶネットワークを通じて産直を進める現地を考える」を作成・配布した。

## 地域活性化支援事業

### 1 地域活性化事業

業 ( 1 ) NPO 法人を核としたグリーン・ツーリズムクラスター創生による農

#### 資源活用手法確立調査

NPO 法人を中心として、遊休地域資源を有効に活用してグリーン・ツーリズムを総合的に展開することにより、地域振興を図る方策について検討(三重県いなべ市、静岡県天竜市「くんまの里」など)。

( 2 ) 農村環境計画策定支援(栃木県河内町)

( 3 ) 農村開発整備調査(埼玉県秩父市)

( 4 ) 都市と長崎のしまの共生・対流ネットワーク会議支援  
(長崎県、長崎県離島振興協議会)

( 5 ) 魅力ある体験プログラム開発支援(沖縄県城辺町)

( 6 ) 「農林漁業をやってみよう」ホームページの運営支援  
(富士通オフィス機器)

( 7 ) 地域の合意形成のためのワークショップ支援  
青森県つがる里山体験塾(グリーン・ツーリズム)、静岡県小山町  
(グリーン・ツーリズム)、伊豆市(グリーン・ツーリズム)、下田市  
(海洋浴の郷づくり)

( 8 ) 農村振興総合企画調査事業

NPO 法人等による都市農村交流活動における課題について調査

( 9 ) その他

田舎暮らしをテーマとした退職準備セミナーの開催支援  
(東京都特別区職員互助組合)

香川県三木町特区推進ビジョンの策定支援

### 2 「塾友会」の活動推進及び村づくり塾運動の支援

「塾友会」等法人会員企業の協力を得て、企業のノウハウを活用した都市と農山漁村の共生・対流の促進、情報基盤の整備等による農山漁村地域の活性化のため、次の研究会を設け、支援推進活動を行った。

( 1 ) ガーデン研究会

「美しい暮らし、美しいまち・むら、美しい国土( Beautiful Life、 Beautiful Community、 Beautiful Country )」の実現を目指して、生き生きとした地域づくり、地域間の交流を図るため、10月15日埼玉県深谷市で第4回全国ガーデニングサミットを開催した(13市町村、企業9社が協議会を構成して主催、800名参加)。

## (2) 情報化研究会

塾友会企業(情報化研究会)が共同作業により、「農業農村活性化のためのIT活用ガイド」を作成し、農業農村の情報化を進めるため、市町村等関係方面に配布した。

また、地域の人材育成や活性化に取り組んでいる全国の村づくり塾運動について引き続き支援・相談活動を行った。

## 交流事業

### 1 都市農村交流事業

#### (1) 「日本ふるさと物語」の開催

11月13日～14日、大阪市鶴見緑地公園において「第19回日本ふるさと物語」を開催し、グリーン・ツーリズム等都市農村交流の普及宣伝を行った。

#### (2) 青空市場の開催

消費者と生産者の交流を促進するため、東京・銀座において、俳優の永島敏行氏を実行委員長とする「青空市場」を開催した(平成16年5月22日、7月17日、10月30日、平成17年3月12日)。

#### (3) 都市農村交流行事への支援

市町村等の要請に応じ、都市農村交流事業の企画、運営に参画し、主催者に協力して行事の円滑な運営と交流の促進を図った。

### 2 各種研究会・報告会の開催

#### (1) 調査研究報告会の開催

当機構の調査研究の成果を賛助会員・都道府県及び市町村の担当者等に提供するための報告会を開催した。

(7月26日 東京都文京区 65名参加)

#### (2) 月例研究会

賛助会員等を対象として、その時宜に応じたテーマ・講師を決めて研究会を開催した。

### 3 海外諸国との交流

農林漁業・農山漁村をめぐる国際化の進展等に対応して、海外諸国の農業振興対策に関する調査団の派遣を行うとともに、海外農業者の研修の受け入れ、農山漁村活性化の研究交流等を行った。

- (1) 韓国農漁村青少年育成財団の研修受け入れ(6月30日～7月7日)  
韓国女性農業者20名が広島県甲山町、世羅町、世羅西町でホームステイ研修
- (2) ヨーロッパ農村振興調査団の派遣(10月17日～26日)  
オランダ・フランス、スイス、ドイツ(日本の農業・農村リーダー13名が参加)

## 広報・出版事業

### 1 広報活動

- (1) 都市住民のニーズに即応したふるさと情報(農山漁村の自然環境、生産、生活、文化等に関する情報)を新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、企業広報等のあらゆる媒体を通じて積極的に提供した。
- (2) 都市・農山漁村交流、農山漁村地域の活性化に関する情報提供及び当機構の業務等の周知を図るため、広報誌「びれっじ」等を発行した。また、FAX通信「まちむらNEWS」を毎月配信した。
- (3) インターネットホームページを通じて、ふるさと情報、民宿情報等を提供したほか、当機構の組織・業務、調査研究の成果、行事等の情報発信を行った。また、ホームページを公開している市町村、団体等と当機構のホームページをリンクさせ、市町村等のホームページのアクセスを容易にするサービスを提供した。
- (4) 都市・農山漁村交流、農山漁村地域の活性化に関する映像情報を作成するとともに、これを通信衛星放送「グリーン・チャンネル」を通じて都市住民等に放送する。また、「ビデオライブラリー」を設置し、研修等へのビデオの貸し出しを行った。
- (5) その他、当機構の活動を通じて、都市農山漁村交流の促進、農山漁村地域活性化に対する理解を深め、支援者の拡大に努めた。

### 2 出版事業

グリーン・ツーリズム等都市農山漁村交流やむらづくりに関する調査研究の成果品、優良事例集、各種マニュアル、テキスト、パンフレット等を出版し、広く一般の利用に供した。

## 第3 組織運営

### 理事会

#### (1) 第1回理事会

日時 : 平成16年6月29日(火)  
場所 : 東条インペリアルパレス(東条会館)  
出席者 : 67名(本人出席14名、委任状44名、書面評決9名)  
議事 : 第1号議案 平成15年度事業報告の承認に関する件  
第2号議案 平成15年度決算報告の承認に関する件  
第3号議案 評議員の選任に関する件

#### (2) 第2回理事会

日時 : 平成16年9月21日(火)  
場所 : 東条インペリアルパレス(東条会館)  
出席者 : 64名(本人出席23名、委任状35名、書面評決6名)  
議事 : 第1号議案 寄附行為の改正に関する件  
第2号議案 役員を選任に関する件

#### (3) 第3回理事会

日時 : 平成16年10月15日(金)  
場所 : (財)都市農山漁村交流活性化機構 会議室  
表決者 : 64名  
議事 : 第1号議案 役員互選に関する件  
第2号議案 副理事長の順序に関する件  
第3号議案 名誉顧問並びに特別顧問の承認に関する件

#### (4) 第4回理事会

日時 : 平成17年3月28日(月)  
場所 : アルカディア市ヶ谷(私学会館)  
出席者 : 67名(本人出席13名、委任状40名、書面評決14名)  
議事 : 第1号議案 平成17年度事業計画の承認に関する件  
第2号議案 平成17年度収支予算の承認に関する件  
第3号議案 評議員の退任に関する件  
第4号議案 常勤役員の報酬に関する件

### 評議員会

#### (1) 第1回評議員会

日時 : 平成16年6月29日(火)  
場所 : 東条インペリアルパレス(東条会館)  
出席者 : 99名(本人出席14名、委任状66名、書面評決19名)  
議事 : 第1号議案 平成15年度事業報告の承認に関する件  
第2号議案 平成15年度決算報告の承認に関する件  
第3号議案 理事の選任に関する件

(2) 第2回評議員会

日時：平成16年9月21日(火)  
場所：東条インペリアルパレス(東条会館)  
出席者：99名(本人出席13名、委任状64名、書面評決22名)  
議事：第1号議案 寄附行為の改正に関する件  
第2号議案 理事及び監事の選任に関する件  
第3号議案 名誉顧問並びに特別顧問の承認に関する件

(3) 第3回評議員会

日時：平成17年3月28日(月)  
場所：アルカディア市ヶ谷(私学会館)  
出席者：73名(本人出席15名、委任状42名、書面評決16名)  
議事：第1号議案 平成17年度事業計画の承認に関する件  
第2号議案 平成17年度収支予算の承認に関する件  
第3号議案 評議員の退任に関する件

本財団の基本財産及び基金(平成17年3月31日現在)

基本財産	1,187,000千円
活性化研究基金	1,102,104千円
畜産地域振興基金	1,218,474千円
畜産地域魅力形成基金	451,773千円

賛助会員(平成17年3月31日現在)

(1) 団体会員	75
中央団体	13
地方団体	62
(2) 特別法人会員	39
(3) 普通法人会員	43
(4) 市町村・地方塾会員	447
(5) 個人会員	6
計	610

役員(平成17年3月31日現在)

(1) 理事

名誉顧問	伊藤 助成	日本生命保険(相)代表取締役会長
理事長	檜垣徳太郎	全国農業会議所顧問
特別顧問兼	黒澤 丈夫	群馬県上野村長
副理事長		
副理事長	今村奈良臣	東京大学名誉教授
副理事長	宮田 勇	全国農業協同組合中央会会長

副理事長 石原 邦夫 東京海上日動火災保険（株）取締役社長  
 専務理事 齋藤 章一 （財）都市農山漁村交流活性化機構専務理事  
 常務理事 坂尾 彰 （財）都市農山漁村交流活性化機構常務理事  
 他 57名（別添のとおり）

（２）監 事

岸 康彦 （財）日本農業研究所 研究員 他 3名（別添のとおり）

評議員（平成17年3月31日現在）

浅沼 圓立 （株）全新企画社 代表取締役会長  
 他 71名（別添のとおり）

職 員（平成17年3月31日現在）

部 署 名	人 数（名）
参 与	1
事務局長	1
総務部	4
企画部	4
体験農業推進部	4
都市交流推進部	5
情報交流推進部	6
（ふるさとプラザ東京）	（1）
地域活性化支援推進部	6
合 計	31